

また、「働ける年齢」から「働きたい年齢」を引いた余力についてみると、「余力なし」の者、「ちょうどよい」の者、「余力あり」の者の順に、Dr. EAT の値が大きくなり（図 7 5）、WAI の値も「余力なし」以外では大きくなった WAI（図 7 6）。

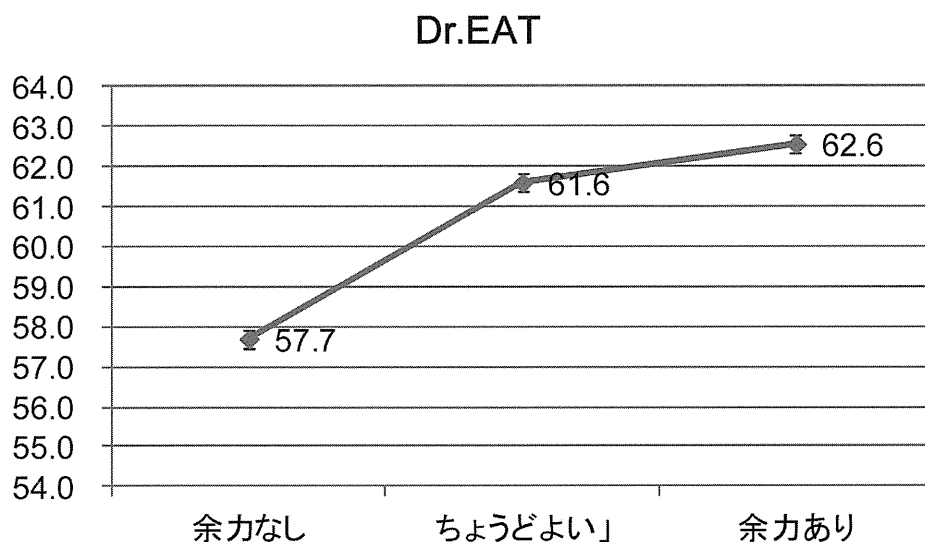


図 7 5 Dr. EAT の平均値と標準誤差、「働ける年齢」から「働きたい年齢」を引いた余力の有無別

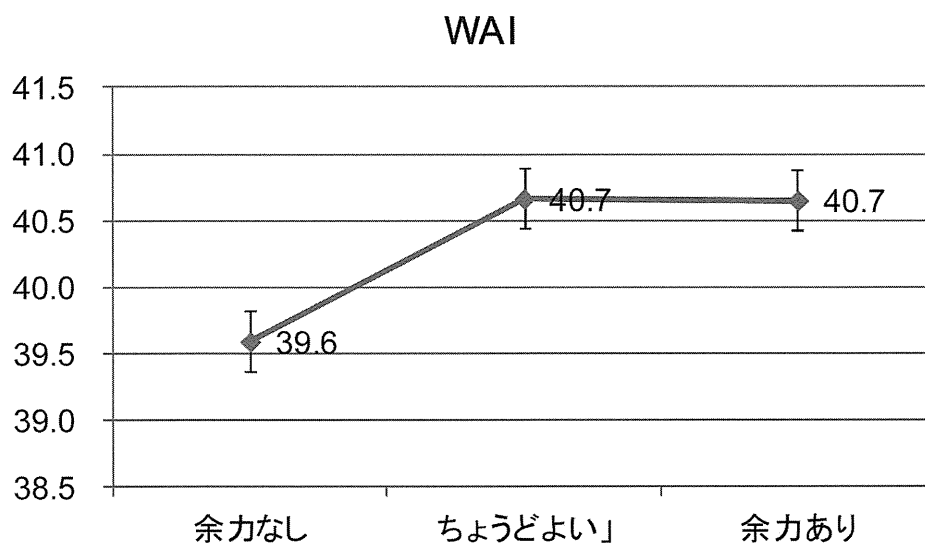


図 7 6 WAI の平均値と標準誤差、「働ける年齢」から「働きたい年齢」を引いた余力の有無別

ここで、追加して、「働きたい年齢」と「働ける年齢」との比較から求めた「余力の年数」を Dr. EAT の数値と WAI の数値から検討した。

Dr. EAT の数値と WAI の数値がそれぞれ大きくなるにしたがって、余力の年数が増加する傾向を認めた（図 7 7、図 7 8）

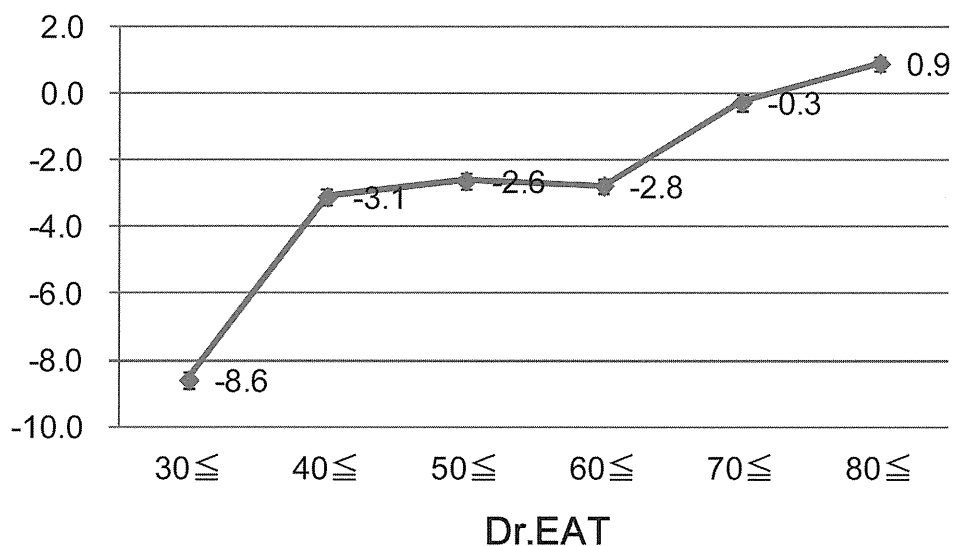


図 7 7 「働ける年齢」から「働きたい年齢」を引いた余力の年数、Dr. EAT の数値別

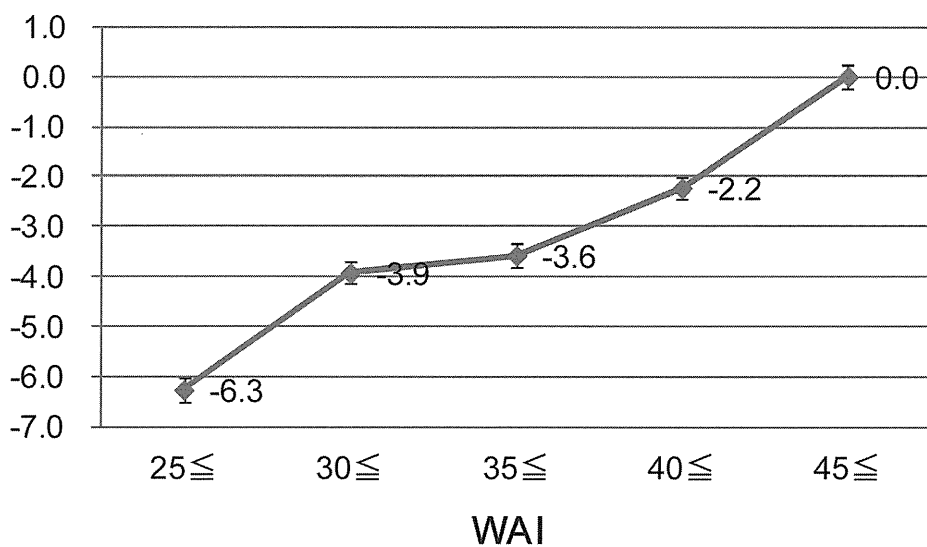


図 7 8 「働ける年齢」から「働きたい年齢」を引いた余力の年数、WAI の数値別

第6章 まとめ

平成23年度は、平成22年度に行った身体的機能（筋力の代表値として“握力”、平衡機能（視覚機能併用）として“開眼片足立ち”）および労働と密接に関連する注意の集中維持機能（Target Aiming Function: TAF）ならび視覚探索機能(Trail Making Test)、反応時間（単純・選択）、ワーキングメモリ機能（Sternberg Paradigm Test）、疲労自覚症、に関する実地測定調査、加えてメンタルヘルス状態、作業条件・適応能力等々に関する質問紙調査を用いて収集したデータ（質問紙調査の解析対象者は自動車製造業に従事する作業者2,502名、実値測定対象者は質問紙調査対象者から抽出）を解析し、エンプロイアビリティ評価ツールに必要な評価指標の検討を行った。抽出された項目は、“自覚的健康度”（健康障害）、“自覚的身体機能の低下”“握力”“平衡機能”（身体機能）、“注意の持続と視覚探索能力”“反応時間”“作動記憶”“集中維持機能”（認知機能）、“運動の必要性の自覚”（運動習慣）、“慢性疲労傾向”“疲労感”（疲労耐性）、“睡眠の問題”（疲労・ストレス）、“パーソナリティ”（モチベーション）、“抑うつ”（メンタルヘルス）、“ヒヤリハット”（身体・認知機能）である。これらの項目を基にエンプロイアビリティの評価を行うためのモデルを作成した。作成されたモデルは、“健康度”、“基本的仕事力”、“応用的仕事力”の3つの要素を持つ。この概念では一番底辺にあるのが“健康度（心身容量）”であり、その中には“健康障害（軽度＋重大）”、“心身機能（運動機能＋認知機能）”、“運動習慣”含んでいる。この部分はアクティブ・エイジングにおいて最も重要な部分となる。“健康度”の上にあるのが、“基本的仕事力”である。“基本的仕事力”とは、様々な職務へ応用できる能力である“汎用性職務能力”および、社会への適応力としてストレスに対する耐性“ストレス対処能力”を含む。ここまでの部分（健康度＋基本的仕事力）がアクティブ・エイジングを実現するために必要な要件であると考えている。この上に乗るのが“応用的仕事力”である。応用的仕事力は現在の職務を基準として職務への適応性を示しており、“現在の職務能力”、“勤務への適応性”、“疲労耐性”から構成される。

このモデルおよび22年度に得られたデータを基にDr. EATの質問項目および得点化の方法を決定した。

Dr. EAT= 健康度（軽度な健康障害＋重大な健康障害×1.5＋心身機能×1.5＋運動習慣×3）
＋基本仕事力（ストレス対処能力×3＋自覚的仕事力＋汎用職務能力）
＋応用仕事力（仕事上の能力＋疲労耐性×1.5＋勤務への適応性×1.5）

Dr. EAT質問項目およびWork Ability Indexを含む質問紙調査票を作成し、7企業1912名からDr. EAT関連データを収集した。収集したデータを用いて、エンプロイアビリティモデルの妥当性について検討した。

内部整合性を示すクローンバックの α 係数は、対象者全員においては0.60、45歳以上では0.62、45歳未満では0.59であった。

これらの対象者に関して、Dr. EAT得点とWAIスコアとの間における相関を調べると、対象者全体では、Pearsonの相関係数は0.426 ($p < 0.01$)、45歳以上の対象者では0.475 ($p < 0.01$)、45歳未満では0.412 ($p < 0.01$)となり、45歳以上の対象者の方が高い相関を示した。

